

## 2 将来像

### 2030年頃の長野県の将来像

県では2018年度からの総合5か年計画を、概ね2030年の長野県の将来像を展望する長期ビジョンと位置付け、以下①～④の姿をめざしていることから、本ビジョンにおいては総合5か年計画のめざす姿を将来像として共有することとします。

#### 長野県のめざす姿

##### ①産業の生産性が高い県

- ・柔軟で足腰の強い産業が地域の活力を生み出し、県民の生活を支えている。

##### ②人をひきつける快適な県

- ・豊かな自然や地域に根付いた文化、生活の利便性などが調和した質の高いライフスタイルのもとで、国内外と活発に交流している。

##### ③いのちを守り育む県

- ・自らの健康と豊かな自然環境を守り、安心できる暮らしを次世代に継承している。

##### ④誰にでも居場所と出番がある県

- ・誰もが等しく社会からその存在と役割を認められ、自らの可能性に挑戦し、自分らしく生きている。

なお、政策を展開する際は、「学びと自治の力」を推進エンジンとし、以下をめざす姿とします。

- ・子供から大人まで全ての県民が主体的に学び個々の持つ能力を社会の中で発揮している。
- ・多様な主体が協働しながら、地域の課題解決に取り組み、県全体の魅力を高めている。

#### (参考)新総合交通ビジョンにおける将来像

新総合交通ビジョンは、長野県の交通（鉄道・航空等含む）の望ましい将来像を示すものとして2013年3月に策定したもので、目標年次は平成2027年。本ビジョンと期間や分野が重なる部分もあるため、調整を図りつつ、それぞれのビジョンの実現を目指します。

#### 新総合交通ビジョンが目指す交通の将来像

- ▶東日本と西日本、太平洋と日本海を結び海外へと広がる本州中央部広域交流圏の構築  
～高速交通網を最大限に活かした交流拡大の実現～
- ▶交流の結節点“信州”を快適につなぐ移動環境の形成  
～県内を円滑に移動できるネットワークの実現～
- ▶長寿社会の確かな暮らしを支える地域交通の確保  
～安全・安心で持続可能な交通サービスの実現～

#### ●本州中央部広域交流圏の構築イメージ



出典:「長野県新総合交通ビジョン」(2013年3月)